

ボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)情勢月報(2019年9月分)

2019年10月

在ボスニア・ヘルツェゴビナ日本国大使館

目次(以下は主なトピックを抜粋)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●[新政権発足に向けた連立協議\(5日\)](#)

●[民主行動党\(SDA\)党大会の開催\(14日\)](#)

(2) エンティティ、特別区

ア. ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

イ. スルプスカ共和国(RS)

●[独立社会民主主義者同盟\(SNSD\)党幹部会合の開催\(18日\)](#)

●[民主進歩党\(PDP\)党大会の開催\(28日\)](#)

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●[サットラー新駐BH・EU代表部大使が就任\(18日\)](#)

●[コムシッチ大統領評議会議長、国連総会に出席\(24～28日\)](#)

(2) 二国間関係

●[クロアチア要人、ジェノサイドに関するコムシッチ大統領評議会議長発言を非難\(28日\)](#)

(3) 日・BH関係

●[2020年東京オリ・パラ大会に向け伊仙町とBHが覚書に調印\(22日\)\(写真\)](#)

●[BH治安当局に対する緊急対応車両の引き渡し式典の実施\(25日\)\(写真\)](#)

3. 経済

(1) 経済政策・公共事業

●[サラエボ・ベオグラード間高速道路の建設作業がセルビア側で開始\(2日\)](#)

●[BHにおける経済活動の自由度、前年から変動なしの92位\(13日\)](#)

(2) 民間セクター

●[S&P、BHの信用格付けを“B”で据え置き\(10日\)](#)

(注: 以下は、当地紙報道などの公開情報をとりまとめたものです。)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●新政権発足に向けた連立協議(5日)

民主行動党(SDA、ボシュニャク系最大政党)、独立社会民主主義者同盟(SNSD、セルビア系最大政党)、クロアチア民主同盟(HDZ、クロアチア系最大政党)が8月5日に合意した、国レベルの新政権発足に向けた3党間覚書の履行期限が経過するも、新政権発足は完了せず。BHのNATO加盟行動計画(MAP)開始に必要なNATOへの年次国家計画(ANP)の提出を新首相候補任命の条件とするSDAと、それに反対するSNSDの対立は解消されておらず、新政権発足の見通しは不透明感を増している。

●第1回プライド・パレードの開催(8日)

サラエボ市で第1回プライド・パレード(同性愛者等パレード)が開催。パレードは市内中心部で行われ、約2,000人の参加者がBH議会前広場(ボスニア・ヘルツェゴビナ広場)までの大通り(チトー元帥通り)を行進した。

●SDA党大会の開催(14日)

ボシュニャク系最大政党の民主行動党(SDA)は第7回党大会を開催。イゼトベゴビッチ現党首が再選したほか、「ボスニア・ヘルツェゴビナ共和国」への国名変更や、現行の2エンティティ制(BH連邦およびスルプスカ共和国)を含むBHの国家構造再編などの諸目標を定めた党宣言が採択された。これに対してSNSDおよびHDZなど各党は相次いで非難声明を発出、インツコOHR上級代表もSDAによる政治的分断を煽る発言を非難する声明を発表した。

●SDP、2006年に否決の憲法改正草案をBH議会に再提出(24日)

社会民主党(SDP、ボシュニャク系多数派の中道左派政党)は、2006年4月に議会否決された憲法改正草案(通称4月合意)をBH議会に再提出。同草案は、現行の大統領評議会制の変更などを主な内容とし、2006年には主要政党の事前合意を得ながら、SDAから一部造反が出るなどして否決された。今回の議会再提出をめぐっては、主要政党間の対立が深刻化する現状で改正草案が成立する可能性は低いと見られている。

(2) エンティティ、特別区

ア. ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

●社会民主主義者党が結党(7日)

社会民主主義者党(SD)の結党大会がトウズラ市(BH連邦)で開催された。同党党首に就任したビエディッチは、前社会民主党(SDP)トウズラ・カントン支部長で、先般同カントン政権の発足に向けSDAとの連立協議を主導したことをめぐり、SDAとの連立拒否の方針をとるSDP党中央と対立し除名処分を受けていた。BH連邦議会におけるSDの議席保有数は、上下両院を合わせて6議席。

イ. スルプスカ共和国(RS)

●SNSD党幹部会合の開催(18日)

9月14日のSDA党大会以降、同党との対立を深める独立社会民主主義者同盟(SNSD、セルビア系最大政党)は幹部会合を開催。同幹部会合は、SDAが示したBHの中央集権化追求への反対姿勢を明確化。詳細は明らかにはなっていないものの、裁判権や国防権など、過去にエンティティ(BH連邦及びスルプスカ共和国)から中央政府へ移管された権限の返

還を求めていく方針などを決定したとの報道がある。

●セルビア系主要政党の党首、ブチッチ・セルビア大統領と会談(21日)

独立社会民主主義者同盟(SNSD、BH議会セルビア系第一党)、セルビア民主党(SDS、同第二党)、民主進歩党(PDP、同第三党)などのセルビア系主要政党党首は、セルビアのベオグラードにおいて、同国のブチッチ大統領と合同の会談を実施。各党党首は、今月14日にボシュニャク系最大政党のSDAが発表した党宣言を非難する立場を確認した。これに対してブチッチ大統領は、SDA党宣言を非難しつつ、各党党首に対して冷静な対応を呼びかけた。

●RS警察で武装警察部隊が発足(24日)

スルプスカ共和国(RS)内務省は、同共和国警察の組織改編を行い、新たに武装警察部隊(Gendarmerie)を発足。バニャ・ルカ市(RS中心都市)で開催された同部隊発足式典において、ドディック大統領評議会メンバー(セルビア系、SNSD党首)は、同部隊発足の目的はテロリズムや組織犯罪への対応力向上にあると述べ、同部隊発足をスルプスカ共和国によるBHからの分離主義的動きの一環と警戒する国内外の一部見方を牽制した。

●PDP党大会の開催(28日)

民主進歩党(PDP、BH議会セルビア系第三党)は第9回党大会を開催。ブレノビッチ現党首が再選したほか、スルプスカ共和国の更なる自治権拡大などの諸目標を定めた党宣言が採択された。なお、現政権で与党の同党(ツルナダク外相が同党から入閣)は、今後S

NSD(セルビア系最大政党)を中心とする新政権の発足に伴い下野する見通し。

2. 外政

(1)多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●米国国務省、パルマー国務次官補代理を西バルカン特使に任命(1日)

ポンペオ米国務長官は、パルマー国務次官補代理を、新たに西バルカン担当特使に任命。これに関してツルナダクBH外相は、パルマー西バルカン特使の就任は、コソボの地位問題を始めとする、西バルカン地域における係争解決に対する米国政府の強い意志の表れだと述べ歓迎した。

●サットラー新駐BH・EU代表部大使が就任(18日)

サットラー新駐BH・EU代表部大使は、コムシッチ大統領評議会議長(国家元首、クロアチア系)に信任状を奉呈。大統領府で行われた就任式典においてサットラー新大使は、BHのEU加盟に向けた国内改革をEUが引き続き支援する方針を述べつつ、本年5月に欧州委員会が発表した意見書に基づく14の改革項目の実施が、今後のBHの課題である旨を強調した。

●コムシッチ大統領評議会議長、国連総会に出席(24～28日)

コムシッチ大統領評議会議長は、第74回国連総会で一般討論演説を行ったほか、グテーレス国連事務総長および各国要人との会談を実施。一般討論演説において、コムシッチ議長は、国連の主要政策である持続可能な開発目標(2030アジェンダ)や、BHの欧州・

大西洋統合などに対するBHの強いコミットメントを表明した。

(2) 二国間関係

●クロアチア要人、ジェノサイドに関するコムシッチ大統領評議会議長発言を非難(28日)

コムシッチ大統領評議会議長は、ニューヨークで実施したディエン国連ジェノサイド予防担当特別顧問との会談において、クロアチアの一部政治家が第二次世界大戦中に「クロアチア独立国」が行ったジェノサイドを公然と否定していると発言。これに対してグラバル＝キタロビッチ・クロアチア大統領は、コムシッチ議長はBHにおいてクロアチア系の正当な政治的代表ではないと非難する声明を発表した。

(3) 日・BH関係

●2020年東京オリ・パラ大会に向け伊仙町とBHが覚書に調印(22日)(写真)

鹿児島県の伊仙町は、BHオリンピック・パラリンピック委員会および闘牛飼育・愛好者協会との間で、2020年東京オリンピック・パラリンピック大会に向けたホストタウン事業の実施に関する覚書に調印。同町で行われた調印式には、BHから闘牛飼育・愛好者協会会長およびシニシャ・ベリヤン駐日BH大使らが出席し、多数の町民から歓迎を受けた。伊仙町とBHは、ともに闘牛の伝統を有している。



(写真: 大久保伊仙町長とグリーバ闘牛飼育・愛好者協会会長)

●BH治安当局に対する緊急対応車両の引き渡し式典の実施(25日)(写真)

平成25・26年度「中小企業ノン・プロジェクト無償資金協力」に基づくBH治安当局への緊急対応車両9台の供与・引渡式典がBH政府庁舎で行われ、坂本秀之日本大使およびメクティッチBH治安相らが出席。メクティッチ治安相は、日本政府による今次9台の車両供与は自然災害に対するBH治安当局の対応能力向上に大きく貢献すると述べ、同支援に対する感謝の言葉を述べた。



(写真: 坂本大使とメクティッチ治安相)

3. 経済

(1) 経済政策・公共事業

●サラエボ・ベオグラード間高速道路の建設作業がセルビア側で開始(2日)

当地各紙報道によれば、サラエボ・ベオグラード間の高速道路計画のうち、セルビア側の建設作業が近日中に開始の予定。同区間の建設は、セルビアとトルコの建設会社が合同で実施する見通し。なお10月8日には、本建設作業の起工式典が、コムシッチBH大統領評議会議長（国家元首、クロアチア系）、ブチッチ・セルビア大統領、エルドアン・トルコ大統領の出席の下、セルビアのスレムスカ・ラチャ付近で催行予定。

●1～8月期のBH国内の間接税収入は前年比6. 2%増(7日)

本年1～8月期の間接税(ITA)による徴収額は、BH国内全体で前年同期比6. 2%増の52億KM(約26億ユーロ)。同間接税徴収による収入は、消費税(VAT)に基づく徴収額の一部が納税者に還付された後、国、2エンティティ(BH連邦、スルプスカ共和国)、ブルチュコ特別区の各行政機構に配分される。

●BHにおける経済活動の自由度、前年から変動なしの92位(13日)

世界各国の経済活動の自由度に関する Fraser Institute(カナダ)発行の2019年版報告書において、BHは前年から変動なしの92位(全162か国中)。同結果に関して、同研究所のポルチュニク上席研究員は、BHの問題は法の支配の不整備にあると指摘した。同報告書は、各国の経済政策および統治機構の分析を基に国ごとの経済活動の自由さを数値化している。同報告書は以下のURLから入手可能(<https://www.fraserinstitute.org/studies/economic-freedom-of-the-world-2019-annual-report>)。

(2)民間セクター

●S&P、BHの信用格付けを“B”で据え置き(10日)

国際的な信用格付け会社であるS & P(Standard and Poor's)は、BHの信用格付けを前向きな見通しの“B”(B with positive outlook)で据え置き。BH経済の見通しをめぐっては、新政権発足に向けた連立協議の停滞が最大の懸念材料とされる一方で、安定的な新政権が国内の構造改革を再開することが出来れば、今後1年以内にBHの信用格付け引き上げが行われる可能性もあると見込まれている。